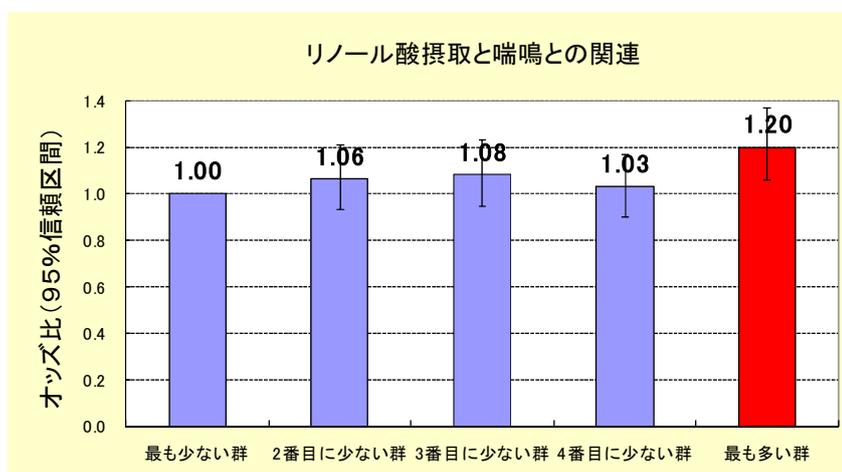


脂肪酸摂取と喘鳴、喘息との関連

背景：近年の喘息の増加は食事の西洋化によるのかもしれませんが。特に、n-6系不飽和脂肪酸摂取の増加と n-3 系不飽和脂肪酸摂取の低下によるのかもしれませんが。

方法：琉球小児健康調査の参加者のうち、解析に用いた要因のデータ欠損のない 25,033 名を対象としました。小学生用簡易版食事歴法質問調査票を用いて栄養に関する情報を得ました。ISAAC の基準に従い、過去 1 年の喘鳴と喘息を定義しました。年齢、性別、居住市、兄弟数、家庭内喫煙、BMI、両親の喘息、アトピー性皮膚炎またはアレルギー性鼻炎の既往歴、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：多価不飽和脂肪酸、n-3 系不飽和脂肪酸、n-6 系不飽和脂肪酸及びリノール酸摂取と喘鳴有症率との間に有意な正の関連を認め、最小五分位に対する最大五分



位の補正オッズ比は、それぞれ 1.19、1.17、1.19、1.20 でした。αリノレン酸、エイコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸、アラキドン酸、n-3/n-6 比のいずれも喘鳴と関連を認めませんでした。総脂肪、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、コレステロール摂取も喘鳴と関連がありませんでした。喘息有症率との関連については、いずれの脂肪酸摂取とも統計学的に有意な量-反応関係は認めませんでした。

結論：n-3 系不飽和脂肪酸と喘鳴との間の関連は負ではなく正でありました。n-6 系不飽和脂肪酸摂取、特にリノール酸摂取は喘鳴の高い有症率と関連があるのかもしれませんが。喘息有症率はいずれの脂肪酸摂取とも関連を認めませんでした。

出典： Miyake Y, Sasaki S, Arakawa M, Tanaka K, Murakami K, Ohya Y. Fatty acid intake and asthma symptoms in Japanese children: The Ryukyus Child Health Study. Clin Exp Allergy. 2008; 38: 1644-1650.